

科目名	経済と社会の仕組み	科目コード	1154	単位数	2
担当者名	複数担当教員	開講セメスター	第4セメスター	開講年次	2年次

● 授業のねらい

人間は社会から隔絶して生きていけない。現代人にとって経済的知識は必要不可欠となっている。経済と社会の関わりは社会的・文化的伝統、時代によって様々な特徴を有するが、授業では多くのトピックスを取り上げ、激変する社会と経済との関わりを学び、経済学を学ぶための素養を身につけることを目的とする。また最近では日本の近代化に関係した産業遺産が世界遺産に登録され、新たな観光資源として注目されている。この観点からも本講義の内容に興味を持って取り組んで欲しい。

● 到達目標

経済と社会の関わり方は時代や制度、社会的・文化的伝統等によって変化するので、それらの背景を十分に理解すると同時に、第4セメスターから学ぶ専門科目の基礎的知識がより理解できるようにしたい。

● 授業内容

- 1週目 経済成長と家庭電化の進展
- 2週目 エネルギー革命 石炭から石油へ、電気へ
- 3週目 商社の大型化・企業集団の形成
- 4週目 高度経済成長と生産性の向上
- 5週目 日本型雇用システムの展開
- 6週目 生産性向上運動
- 7週目 自動車産業の発展と生産方式
- 8週目 スーパー・マーケットの成長と流通革命
- 9週目 インスタント食品の登場と外食産業の発展
- 10週目 公害問題の深刻化と企業の社会的責任
- 11週目 石油危機後の減量経営と日本の雇用システム
- 12週目 貿易摩擦と企業の海外現地生産
- 13週目 官業の民営化
- 14週目 規制緩和と金融機関
- 15週目 戦後の大型合併と大型倒産
- 16週目 最近の動向と課題

● 準備学習(予習・復習)等の内容

講義は各クラス共通のテキストに基づいて行うので、テキストをしっかりと読み、疑問点はチェックし、講義後にはその点が解明できるようにしておくこと。復習は教わったことを十分に考え、自分の言葉で友人に説明できる位、理解して自分の身に着けるよう努力すること。

各回の講義内容がその次の回以降の内容の前提になっており、欠席すると講義全体の理解が困難になるので、欠席はしないこと。

また、CoursePowerを用いて予習・復習の課題を提示する場合もあるので、そのチェックも怠らぬようにすること。

● 成績評価の方法・基準

成績は試験、レポート、講義へのコミットメント等を総合的に判断して評価する。

● 履修上の留意点/課題に対するフィードバックの方法

単位取得の条件は開講回数の2/3以上の出席とし、それ以下の場合は試験の受験を認めない。ただ教室に居るだけでなく、よく聞き、質問をしてただ覚えるだけでなくよく考えて理解に努めること。詳細については担当者が講義の初めに説明する。また、講義中に私語をやめない人、テキストや筆記用具を持参していない人には退室を命じる場合がある。

担当者からの連絡事項などは、CoursePowerを用いる場合もあるので、そのチェックも怠らぬようにすること。

● テキスト

宇田川勝・中村青志編『マテリアル日本経営史 江戸時代から現在まで』有斐閣、1999年、2730円（第3セメスター開講の「経済と社会の仕組み」での指定テキストを継続して使用する）

● 参考書

必要に応じて担当者が紹介する。

● 更新日付

2019/01/31 09:17